

# 道徳研究部

## I 研究主題

### 道徳の授業を充実する資料分析と発問の工夫

副題 ～多様な形式の指導方法の工夫～

## II 主題設定の理由

今の学校教育の中では、道徳教育を推進、充実することが、急務を要する課題であり、さらに、今回の指導要領の改定でも引き継がれている「生きる力」を育むことは、重要なことであると考え

る。  
生きる力とは、変化の激しい社会において人と協調しつつ自律的に社会生活を送ることができるようにするために必要な人間としての実践的な力であり、豊かな人間性を重要な要素としている。これが道徳教育の基盤となっている。

子供に必要とされている豊かな人間性とは、感動する心を持ち、柔らかな感性、正義感や公正さを重んじる心、生命を大切にすることなどである。その豊かな心を持ち、感動できる子ども達を育成するためには、自他の生命を大事にし、逞しく生きていくことをねらいとするさまざまな感動的な資料選択とその分析、そして展開の工夫をすることが必要であると考え、本主題を設定した。

仮説

道徳の時間における指導過程を工夫し、心にしみ込む資料の工夫をしていけば、児童・生徒が感動する心を持ち、生き生きと活動（思考・表現）することができるだろう。

《手立て》

道徳的判断力・実践力を高める



道徳の時間の充実 温かな学級づくり

## III 研究内容

週一時間の「道徳の時間」の充実を図る。

- ① 1時間の流れ・・・ 資料分析をしっかりと。  
考えを深められる工夫（範読・役割演技・書く活動など）
- ② 児童の実態把握・・・ 事前にアンケートを取ったり、写真や児童の作品などを保管したりして、資料選択の際や導入時に生かすようにする。
- ③ 授業内容の工夫・・・ 児童が学んだことを生かし、自分の生き方を見つめ直していけることが望ましい。そこで、教師対児童・生徒のやり取りを大事にしなが
- ら、隣の子や学級全体で意見交換をする場を設けたり、自分の考えを表したり（気持ちカード）書かせたり（ワークシート）する活動を取り入れる。
- ④ 導入や終末の工夫・・・ スムーズに本時が流れるように、音楽を流したり、心のノートを用いたり工夫をする。

## IV 実践

実践事例1 小学校第5学年 生命尊重3-(1)

1. 主題名 かけがえのない命 内容項目3-(1)「生命尊重」

2. 資料名 「りかに命をわけてください」(出典 学校図書)
3. ねらい 自他の命の重さを知り、精一杯生きようとする心情を育てる。
4. 展開

段階	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導入	1. ねらいとする価値について知る。 ・もし自分が「死」につながるような、もう治らない病気になったらどう思うか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悲しい。</li> <li>・怖い。</li> <li>・あきらめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいへの方向づけを行い、簡単に聞く。</li> <li>・自然な死ではなく、突然おそいかかってきた状況であることを理解させる。</li> </ul>
展開	2. 資料「りかに命をわけてください」の範読を聞く。  3. 話し合う。 (1)おなかにもあざができて、目の前が真っ暗になりそうだったときの、りかさんの気持ちはどうだったでしょう。  (2)つらい治療に弱音も吐かずがんばっているりかさんの気持ちはどうだったでしょう。(中心発問)	<p>主人公・・・りか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学三年生のりかは、病気らしい病気をしたことがなかったが、突然「白血病」になってしまう。治る見込みはほとんどないが、少しの希望に向かって、つらい治療も弱音を吐かずにがんばる。</li> </ul> <p>・病気になってしまったのだろうか。</p> <p>・どうしたらいいのかわからない。</p> <p>・病気だと思いたくない。</p> <p>・死んでしまうのか。</p> <p>・不安・怖い。</p> <p>希望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きっと治る。死にたくない。</li> <li>・がんばれば、また元気になれる。</li> <li>・つらいのは今だけだ。</li> <li>・命のある限りがんばる。</li> <li>・家族に心配させたくない。</li> <li>・家に帰りたい。</li> </ul> <p>不安</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このまま治らないかもしれない。</li> <li>・死んでしまうのが怖い。</li> <li>・なんで私だけ。</li> <li>・これからもっとつらくなるかも。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物、状況をおさえ、聞く観点を示しておく。</li> <li>・りかの気持ちをとらえやすいように場面絵を提示する。</li> <li>・白血病について簡単に説明する。</li> <li>・体に大きな異変がおき、大丈夫だと思っていたが、どうにもならなくなった。ということを押さえるようにする。</li> <li>・気丈な態度でがんばるりかの心の中を深く考えさせる。</li> <li>・前向きな気持ちだけではなく、不安でつらい気持ちもあることに気づかせ、深めていく。</li> <li>・「白血病ということを一言も口にできなかった」「自分の思いすごしかもしれない」「もしかしたら治るかもしれない」をキーワードにして、考えさせる。</li> </ul>

	(3)りかさんはどんな気持ちで命の詩を書いたのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きたくても生きられない人がいる、命を大切にしてください。</li> <li>・精一杯生きていることを伝えたい。</li> <li>・なんとか生きていたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命はかけがえのないものであり、精一杯生きることの大切さを考えられるようにする。</li> </ul>
	4. 今日の学習を振り返って、命について考えたことを書き、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命は一つしかない大切なもの</li> <li>・命を粗末にはいけない。</li> <li>・一生懸命生きている、生きようとしている人がいる。</li> <li>・お父さんやお母さん、そのずっと前から続いてきている命。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精一杯生きること、命の大切さ、生きていることの喜びなどについて考えさせる。</li> <li>・児童に考えを発表させて深め合っていく。(ワークシート)</li> </ul>
終末	5. 教師の説話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・心のノートから話をする。</li> </ul>

## 5. 考察

### 【成果】

- ・生命尊重の良い資料を用いたことで、児童が資料に入り込みやすく、真剣に考えて取り組むことができた。小学5年生だけでなく、中学1年生でも同じ「りかに命を分けてください」の資料で授業を行った。心にしみ込む良い資料は、小、中学生関係なく効果的で、児童の心に響く。資料の選定が重要であることがわかった。同じ資料でも、中学生になるとより深く考え、感じていた。
- ・場面絵を用いること、資料を児童に配布しないことで、児童が集中して資料に入り込みやすくなった。
- ・書く活動を取り入れたことで、児童の考えが深まった。
- ・終末で心のノートを引用し、生きていることを印象付けた。

### 【課題】

- ・中心発問の葛藤場面での深まりが足りなかった。希望的な意見は多く出たが、不安な面の意見が少なかった。補助発問を工夫して補うことで、さらに深く考えさせることができたと思う。板書を生かした発問、流れを切らないつながりのある発問など、発問の工夫が必要である。さらに、対教師ではなく、児童同士のやり取りで心を揺さぶり、深めていくことが必要である。
- ・児童の発言を待つ姿勢が必要であった。すぐに発言できる児童を指名するだけでなく、教師が発言を待つことで、多くの児童が考えるようになる。
- ・発言しない児童への対応が足りなかった。表情をみて指名するなど、意図的な指名も必要になってくる。

研修を通して、教師がねらいを明確にすることが大切だと強く感じた。資料分析をしっかりとし、ねらいにせまるために何が必要なのか考えて、授業を組み立てていくことが必要である。また、教師が誘導するだけでなく、児童同士の学びあいの場も大切にしたい。児童が自分の考えを思い切り表現し、学びあい、深めあう授業を作っていきたい。それは、温かな学級づくりにもつながっていくと思う。


実践例 2 小学校 5 学年

誠実 1 — (4)

- 1 主題名 誠実な心 1 — (4)
- 2 資料名 「手品師」
- 3 ねらい


どんな場面でも自分の心に忠実に、そして相手に真心をもって接することの素晴らしさに気づかせることにより、誠実に明るい心をもって生活する意欲を育てる。

4 展開

	学習活動・主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	1 夢について聞く。 ○将来の夢はなんですか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ選手</li> <li>・大金持ち</li> <li>・芸能人</li> <li>・社長</li> <li>・料理人</li> <li>・歌手</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夢を早く掴みたいという気持ちに共感させる。</li> </ul>
展開	2 「手品師」の範読を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・心に深く染み入るように、教師が、抑揚に気をつけて範読する。</li> <li>・手品師の楽ではない暮らしむきと大劇場へ出る夢、手品師の人柄をつかめるようにする。</li> <li>・男の子の状況をよく押さえてから、手品師の気持ちを考えさせるようにする。</li> </ul>
	3 内容について話し合う。 ○手品師は、どんな手品師ですか。  ①男の子が大きな目を輝かせて次の日の約束をしてきた時、手品師はどんな思いで約束したでしょう。  ②友人から大劇場の出演依頼がきた時手品師はどんなことを考えて迷っていたでしょう。   ③たった一人のお客様の前で手品をしている時、手品師はどんな気持ちだったでしょう。  ○手品師は、なぜ男の子との約束をまもったのでしょうか。(役割演技)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あまり売れていない。・うではないい。</li> <li>・貧乏な暮らしをしている。</li> <li>・大劇場に立つという夢がある。</li> <li>・努力をしている。・優しい人。</li> <li>・自分の手品でこんなに喜んでくれて嬉しい。明日も見せてあげたい。</li> <li>・男の子が元気になるなら、明日も来よう。</li> <li>・どうせ明日もヒマだから、大丈夫だろう。</li> <li><b>大劇場に行きたい・・・</b></li> <li>・自分の夢がやっと叶う。</li> <li>・裕福な暮らしができる。</li> <li>・有名になれば、男の子も招待できる。男の子もわかってくれる。</li> <li>・たった一人のためより、大勢の人を喜ばすことの方がいい。</li> <li><b>男の子との約束を守る</b></li> <li>・約束したのだから守りたい。</li> <li>・男の子を放っておけない。</li> <li>・チャンスはまたくるかもしれない。</li> <li>・これでよかった。気持ちがいい。</li> <li>・約束を果たしてよかった。</li> <li>・男の子を、また元気にできた。</li> <li>・自分の都合で約束を破るわけにいかないから。</li> <li>・男の子が悲しむのはいやだから。</li> <li>・一生後悔するかもしれないから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気楽な気持ちであったかもしれないが、手品によって男の子が元気になったことも確認する。</li> <li>・判断理由に焦点をあててできるだけ多くの意見を引き出す。</li> <li>・方法論も一意見として認めるが、そのどれもが自己中心的な考えであることに気づかせる。</li> <li>・気持ちカードで、どちらの気持ちに傾いているかみんなにわかるようにする。</li> <li>・男の子との約束を果たせなかったらどのような気持ちになるかも考えさせる。</li> <li>・約束を果たしたすがすがしい気持ちを感じ取らせる。</li> </ul>
	4 今までの自分を振り返る。 ○今日この手品師からどんなことを学びましたか。自分の生活を振り返って、手品師から学んだことを書いてみましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の都合で約束したことを破ってはいけない。</li> <li>・自分に正直になれてよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心の迷いを克服し、誠実に行動できた時のすがすがしい成就感に共感させる。</li> </ul>
終末	5 教師の説話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に誠実に生きることは、自分を明るくし、みんなと楽しく過ごせることにつながることを話す。</li> </ul>

**男の子との約束を守る**

- ・これでよかった。気持ちがいい。
- ・約束を果たしてよかった。
- ・男の子を、また元気にできた。




**友人から大劇場への出演依頼**

**大劇場に行きたい**

- ・自分の夢がやつと叶う。
- ・裕福な暮らしができる。
- ・有名になれば、男の子も招待できる。男の子もわかつてくれる。
- ・たった一人のためより、大勢の人を喜ばすことの方がいい。

**男の子との約束を守る**

- ・約束したのだから守りたい。
- ・男の子を放っておけない。
- ・チャンスはまたくるかもしれない。




**男の子との約束をした時**

- ・自分の手品でこんなに喜んでくれて嬉しい。明日も見せてあげたい。
- ・男の子が元気になるなら、明日も来よう。
- ・どうせ明日もヒマだから、大丈夫だろう。

**どんな手品師？**

- ・あまり売れていない。
- ・うではいい。
- ・貧乏な暮らしをしている。
- ・優しい人。
- ・努力をしている。
- ・大劇場に立つという夢がある。



5 考察

【成果】

- ・資料が、子ども達にとって非常にわかりやすく、気持ちが入り込めるものであった。
- ・はじめに、手品師の夢に対する思いを十分に共感させることによって、中心発問である葛藤場面で、両方の気持ちをよく考えることができた。
- ・「気持ちカード」を使用することで、どちらの気持ちにも共感することができ、心の葛藤の様子が、目に見えてわかった。また、役割演技も取り入れることによって、その場面での気持ちを全員に広めることができた。
- ・自分を振り返る場面では、90%の児童が、ねらい（誠実）にあった感想が書けていた。

【課題】

- ・資料の内容確認の時間を長くとしてしまい、十分に子ども達が発言できなかった。
- ・書く活動が2回もあったため、発言の時間が短くなってしまった。
- ・教師の説話では、「今でも後悔していること」を話したが、「〇〇したから、よかった。」という話でもよかった。
- ・10%の児童は、「約束を守ることが大切」という感想を書いており、ねらいにせまることが難しかった。

道徳の授業研究を通して、『道徳は、学級経営の要だ』ということを改めて考えさせられました。研究を重ねていくうちに、私のクラスだけでなく、他の研究員のクラスも変わっていく様子がよくわかったからです。道徳は、1回1回が勝負の授業ですが、その一つ一つを大切に扱っていくことによって、クラス的环境が変わっていきます。子ども達が、何かあった時に、ふと、道徳の授業を思い出し、心にブレーキをかけたり、行動を起こす前に考えたりすることができるようになるのです。それには、積み重ねが重要です。研究では、様々な手法も積極的に取り入れました。また、調べたり、検討したりしました。多くの協議を重ねることによって、授業に対する担任の思いも大きくなります。その思いは、子ども達に必ず届きます。私は、これからも道徳を研究し続ける教員でありたいと思います。そして、子ども達と共に成長していける道徳の授業を実践していきたいと思います。

実践例3 小学校1学年

1 主題名 だれにでも優しく 内容項目 2-(2)「親切」

2 資料名 「はしの うえの おおかみ」 (出典 文溪堂)

3 本時のねらい

自分がされて嬉しかったことから、親切にするよさを感じ取らせる。

4 展開

	学習の流れ (○教師の主な発問等)	(:)子どもの活動 (・)反応など	●教師の支援	時間
導入	1 ねらいをつかむ。 ○みんなは親切にされて「嬉しかったな」「よかったな」と思ったことはあるかな？	(友達, 家族などが) ・ ゆずってくれた ・ 一緒に遊んでくれた ・ 手伝ってくれた ・ 教えてくれた	●本時のねらいをつかめるようにする	5
展開	2 教師の範読を聞き、資料をとらえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">登場人物をおさえる ・ うさぎ ・ おおかみ ・ きつね ・ たぬき ・ くま</div>		●紙芝居(ペープサート)を使って範読し、子どもたちが意欲的に聞けるようにする。	3
	3 内容について話し合う。 (1) きつねやたぬきに「もどれ、もどれ」と言ったとき、おおかみはどんな気持ちだったかな？(役割演技) (2) 自分よりも強くて大きくなまがやってきたとき、おおかみはどんな気持ちだったのだろうか？ 補助発問 このときおおかみは、何と言ったかな？	・ だれにもわたらせない ・ ここは俺だけのものだ ・ 楽しくなってきた ・ 気持ちがいい  ・ こわかった ・ くまにおこられる ・ くまの方が強いから・・・  ・ くまさん、どうぞおさきに	●教室の中心でおこなう。 ●子どもはおおかみ、教師はうさぎのお面をそれぞれ被る。 ●ふざけないで、しっかり言える子を指名する。また、教師はリアクションを大きくし、おおかみが「楽しい」と感じたことも子どもたちの感想から出るようにしたい。	4
	(3) プリントに自分の考えを書き、数名に発表してもらおう。(中心発問) ○はしのうえから くまの うしろすがたを、見ていたおおかみは、どんなことを考えていたんだろう。プリントの吹き出しに書き込んでみよう。 (4) おおかみは、うさぎたちをくまと同じように持ち上げて橋を渡らせているとき、どんな気持ちだろう。	・ くまさんは優しいな。 ・ ありがとう。 ・ 自分もそうすればよかった。 ・ こうすればいいんだな。 ・ いじわるをしなければよかった。  ・ 気持ちがいい ・ 楽しい ・ どうぞ ・ こっちのほうがいいな。	●くまの行動をとらえるために、動作化して見せる。教師はお話の中のクマと同じように、おおかみ役の子一人を持ち上げて見せる。 ●机間指導をしながらよく書いている子を見つけ、発表してもらおうようにする。	6
	4 身近な生活につなげる。 ○みんなはいままで誰かに優しくして「よかった」と思ったことあるかな？ 自分だったらどうするかな？	・ 落とし物を拾ってあげた。 ・ ゆずってあげた。 ・ 友達をゆるしてあげた。 ・ 手伝ってあげた。	●相手に親切にすると、自分も気持ちがいいことに気付かせる。 ●これからの生活につなげられるようにする。	2
			●くまの行動をとらえるために、動作化して見せる。教師はお話の中のクマと同じように、おおかみ役の子一人を持ち上げて見せる。 ●机間指導をしながらよく書いている子を見つけ、発表してもらおうようにする。	15
			●相手に親切にすると、自分も気持ちがいいことに気付かせる。 ●これからの生活につなげられるようにする。	4
				4

			●発表が少ないようならこれからしたいと思うことでもいいとする。	2
終末	5 教師の説話を聞く。		●親切は相手も自分も気持ちがいいものだった経験を話す。	

### 板書計画

④ 挿 絵	③ 挿 絵	② 挿 絵	挿 絵①	しんせつ ・ゆずる ・手つだう ・おしよに ・あそぶ はしのうえの おおかみ
・気持ちがいい ・楽しい ・どうぞ こっちのほうがいいな。	・くまさんは優しいな。 ・ありがとう。 ・自分もそうすればよかった。 ・こうすればいいんだな。 ・いじわるをしなればよかった。	・こわかった ・くまにおこられる ・くまの方が強いから・・・	・だれにもわたらせない ・ここは俺だけのものだ ・楽しくなってきた ・気持ちがいい	

### 5 考察

#### 【成果】

資料を紙芝居にして読み聞かせたことで、児童が資料に入りこむことができていた。また、紙芝居や役割演技、書く活動を取り入れることで、児童が意欲的に取り組むことができた。

#### 【課題】

役割演技の際、始まりがわからなかったことと、演技をした子に対して、否定的な言葉が入ってしまったため、発表した児童が困ってしまった。始まりの合図を決め、演技をした児童には温かい言葉をかけることで、もっと児童の本音を引き出すことができたと思う。

◎ 研究員を通して、様々な展開の工夫を学ぶことができた。自分がおこなった資料を、他の教師が違う展開で授業をする様子や、それらの展開によって様々な児童の反応を体感できた。また低学年から高学年、小学校から中学校の発達段階の違いをみることができ、道徳は長い時間をかけて子どもたちの心を育てるものであることを改めて考えることができた。

今後も研修を重ね、様々な展開の仕方を工夫し、片寄った方法にならないようにしたい。また、ねらいを明確にし、発達段階にあった価値を深められるよう教材研究をした上で授業を行いたい。

実践例 4 中学校第 1 学年

- 1 主題名 生命尊重 3 - (1)
- 2 資料名 「語りかける目」 (出典：暁教育図書 中学生の道徳 1 『自分を見つめる』)
- 3 ねらい 生命のかけがえのなさを理解し、生命ある限り懸命に生き抜くこと、またそれは自分以外の人間にとっても同じであり、尊重しようとする態度を育てる。

4 展開

段階	学習活動(主な発問)	予想される生徒の反応	指導上の留意点 (☆評価)
展開	<p>(2) 資料「語りかける目」を読み、話し合いの方向性をつかむ。</p> <p>①登場人物と話の背景を理解する。</p> <p>②ゲストティーチャーによる範読 (資料前段部分) を聴く。</p> <p>(3) 資料に即して考え、話し合う。</p> <p>①「母に抱かれるように」眠っている少女はどのような気持ちで眠っていたのだろうか。</p> <p>②母を助けようとしているとき、少女はどのような気持ちだったのだろうか。</p> <p>③「ありがとう、もう逃げなさい」と言われたとき、少女はどのような気持ちだったのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を見ながら真剣に範読を聞き入る。</li> <li>・何も考えていない。</li> <li>・気持ちがいいな。</li> <li>・安心している。</li> <li>・絶対助ける！</li> <li>・お母さん、生きてて！</li> <li>・ひとりぼっちは嫌。</li> <li>・お母さんを残していくなんて…でも…。</li> <li>・お母さん、ごめんなさい。</li> <li>・お母さんの分まで、私が生きる！</li> </ul>	<p><b>ピアノ・ソナタ第 14 番《月光》</b> 作曲：ベートーヴェン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・BGMを流しながら、ゆっくりと声を抑えながら範読する。</li> <li>・少女と母はとても仲が良く、温かい母子関係であったことをつかませる。</li> <li>・深入りせずに先に進む。</li> <li>・少女が必死で母を助けようとしたことをつかませる。</li> <li>・母を残していくことは辛い、でも「夢中で逃げた」少女の気持ちに迫れるようにする。</li> <li>☆自分の考えをもつことができたか。</li> </ul>
38分	<p>①前段部分までの流れを整理する。</p> <p>②ゲストティーチャーによる範読 (後段部分) を聴く。</p> <p>④&lt;中心発問&gt; この少女の目は、警察官に何を語りかけ、語り続けているのだろうか。 &lt;補助発問&gt; 少女の目はどんな目だったか。</p> <p>・ワークシートに記入する。</p>	<p>(今、こうしてこの資料について考えてきたけれど、この資料は少女の話を聞いた警察官が書いたものだよ。警察官もたくさんの辛い人に接してきたから、この手記が書けたんだよ。そんな辛い思いをした人々は、そのあとどうしたのか。この資料には続きがあります。後半の部分を読んでみましょう。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・辛くても生きていかなければならない。</li> <li>・人生の過酷さ。</li> <li>・生きていく覚悟。</li> <li>・お母さんの分まで生きる！</li> <li>・地震はものすごく悲惨で、ものすごく辛いけど、絶対に負けないで生きていく。</li> </ul>	<p>「目は生きていた。哀しいと思った。美しいと思った。強いと思った。」という文中の言葉を黒板に掲示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な時間をとり、自分の言葉で表現させる。</li> <li>・机間指導をし、自分の考えが書けている子は丸をつけていく。</li> <li>・できるだけ多くの生徒を指名し、発表させる。</li> <li>☆辛い状況の中でも生きていこうとする少女の気持ちに気づけた記述があるか。</li> <li>・余韻を残して終わる。</li> </ul>
終末 5分	<p>○ 音楽を聴く。</p>	<p><b>「幸せ運べるように」</b> 作詞・作曲 臼井 真 歌 Cooley High Harmony</p>	



## 5. 考察

### (1) 本授業の反省

#### <ねらい>

本校は学年を挙げて約2ヶ月間、道徳・総合・学活をリンクさせた「生命の授業」に取り組んだ。それを通して生徒は、生命の大切さに気付き始めていた。その生徒たちの気付きがより確固たるものとなるように、本主題・資料を選択し、「どんなに辛いことがあっても、生きぬかなければならない」という強い気持ちを感じさせることが、本授業のねらいであった。

#### <発問の工夫>

- ・ 中心発問「この少女の目は、何を語りかけているのだろうか」では、多くの生徒が母との壮絶な別れの印象が強くなり、「地震の恐ろしさ」「母を失った哀しさ」に止まってしまった。
- ・ 数名の生徒が「決意」「背負っていく」「母の分まで生きていく」などねらいに迫るポイントになる言葉を言っていた。しかし、発表の段階で教師がそれらを十分に拾うことができなかった。  
→ねらいに迫る言葉が生徒から出てきたときには、教師が切り返しの発問をすることで、生徒はより深く考えることができるだろう。また、その価値に気付いていない生徒にも波及していくことが期待できる。

#### <授業の展開の工夫>

- ・ 本資料は大変心を打つ資料である。そこで、資料のイメージに合う範読がより効果的であると考え今回はゲストティーチャーに範読をお願いし、BGMを流した。その結果、生徒と資料の出会いは非常に印象深いものとなった。授業後の研究協議および指導でも「教師の長所と短所を生かし、出るべきところと引くべきところを見極める必要がある」という言葉を頂いた。
- ・ 資料を分けて提示した。生徒が「少女の気持ち」を追っていくところと「警察官が見て感じた少女の目」（中心発問）をつかむのに効果的であった。
- ・ 終末は余韻を持たせるために、歌を聴かせて終わらせた。生徒一人一人がじっくりと授業を振り返ることが出来、生徒の印象に残った。

#### <研究協議で指摘していただいた改善点>

- ・ 学年をあげて「生命の授業」を行っており、そのまとめとして本授業があるのだから、導入でそれらを振り返る時間があると、生徒のさらなる動機付けに繋がったのではないか。
- ・ 自分の生き方に立ち返る時間がなかった。展開の最後にその時間をとるべきか、中心発問でより深めることが出来ればくあえてその時間をとらない>という選択肢もあるだろう。
- ・ 「少女の気持ち」を追ってきたので「骨を見つめる少女の気持ち」を考えさせる発問も面白い。

### (2) 研究員の実践を通して学んだこと

十分に資料分析を行い、実践し、振り返る、しかも研究員同士で様々な視点から意見を交わすことが非常に勉強になった。授業の見通しが持てるようになり、授業の流れがよくなった。今後は「生徒のつぶやきを拾い、生徒間で繋いだり広げたりできるようになること」が課題である。ねらいを明確にし、それに迫るポイントとなる言葉を教師自身が持った上で授業に臨み、意図的に、深まりある授業を展開できる力を身につけるべく、研修を重ねていく。

## V 成果と課題

道徳の時間は『心の力』を育むしなやかな時間にし、心の力を引き出し、揺さぶる時間にしていきたい。そのためには、一時間の中で、子どもの考えを受け止め、聴き、待つことが大切である。その積み重ねにより、共感的追求ができ、多様な価値観を引き出せるようになる。一人ひとりの子どもにとって、自分の人生・生き方を考える時間になるよう、きめ細かな指導していくことを考え、研究を進めた。道徳の時間を充実させるために、資料の選び方や授業の流れ等を、指導案作成から授業研究を通して、学んできた。

### (1) 成果

#### 心に染み込む資料

副読本を基本にし、児童・生徒の実態に即して、また、新鮮な内容のものを選ぶようにした。人物を追って生き方を考え、感動的な物語を使って考えを深めていくような資料で、ねらいに即したものとなるようにした。その結果、どのクラスも、じっくり聞き、考えを深めることができた。

#### 授業方法の工夫

①導入や終末を効果的なものにし、ねらいにより、役割演技や気持ちカードを取り入れ、行った。アンケートを取り児童・生徒の実態を把握し、また、音楽を取り入れたり、心のノートを引用したりすることにより、子ども達の心に残り、ねらいとする価値への興味付けや印象付けに役立った。

②役割演技は、資料内容を容易にわからせるために、判断を具体的にするためにはとても良い。特に小学校では、行いやすいが、させ方や見方などは、ふざけたり、違う方向に進んだりする恐れがあるので、繰り返し指導し、約束をしっかりと決まることが大事であることが、研究を進めていく中で、気付いた。

③指名については、意図的指名ができるよう、子ども達の考えを机間指導しながら、また、日々の様子を理解していくことが大事である。一時間の授業だけでなく、教育活動全体で子ども達の考えや行動を把握し、指名にもつなげていきたい。それが、ねらいに迫るためには、必要であることが、授業を実践するうちに身に付いてきた。中学校については、挙手ではなく、指名することで、多くの生徒に考えを言わせ、お互いに聞き合うことができた。

研究員同士で、指導案検討をし、授業実践と協議を繰り返し、学び合う中で、子ども達の学び合いの大切さ、考えを言い合い、聞き合えるという授業の基盤を身に付けることができてきた。教師自身が、感動し、自分以外の考え方・感じ方を聞き合うことが、楽しい授業にできる第一歩。それを生で感じ、授業にも生かすことができた。また、じっくり教材研究して行う授業では、子ども達の表情は生き生きと、真剣に考えることができた。

### (2) 課題

①葛藤場面のある心を揺さぶる資料選択(副読本または、それ以外の力のある資料選択)

②ねらいに迫るための考えを深める細かな指導(補助発問や切り返しなど)

③道徳的实践力

展開などにおいて、様々な工夫をすれば、授業中の児童・生徒の表情は生き生きし、真剣に考えることができることはわかったが、その時間に芽生えた道徳的心情が、実践力につながらないと意味がない。他教科、領域や、毎日のあらゆる場面において、以下に自分を振り返らせていくかが大切である。本研究の中で、道徳的实践力につながる「意識の高まり」は見られたが、継続して取り組んでいくことが大事である。